

学校教育目標

- 互いの違いを認め 高め合う子
- 主体的に学び 創造する子
- 心身をきたえ たくましい子



研究主題

自他の大切さを認め、主体的に道徳的価値を深める児童の育成
～言葉でつなぎ深める道徳～



低学年

友達とけんかをしても、友達の気持ちを考えたり、助け合ってよかった経験を思い出したりして、友達と仲よくすることの大切さや仲良く活動することのよさや楽しさ、助け合うことの大切さを実感できる児童。



幼児期の自己中心性から十分に脱しておらず、友達の立場を理解したり自分と異なる考えが存在するという認識に至らなかったり、それを受け入れたりすることが難しいと感じる児童が多い。

中学年

自分の考え方や意見を相手に伝えるとともに、自分と異なる意見について、その背景にあるものは何かを考え、共感しながら聞くことのできる児童。



気の合う友達同士で仲間を作つて自分たちの世界を確保し楽しもうとする傾向がある。おおむね自他の立場や感じ方、考え方などの違いを理解できるが、それを受け止められず感情的になつたり対立が生じたり、自分の利害にこだわることで友達とトラブルを引き起こしたりすることもある。

高学年

自分と異なる意見や立場を尊重することで、違いを生かしたよりよいものが生まれるといったよさや、相手の過ちなどに対しても、自分にも同様のことがあることとして謙虚な心で受け止め、適切に対処できる児童。



これまで以上に友達を意識し、仲のよい友達との信頼関係を深めていくこうとする。また、流行などにも敏感になり、ともすると趣味や傾向を同じくする仲間だけで集団を作ろうとすることもある。

目指す児童像

実態

研究仮説

- ① 発問を、児童の生活や興味に密接に関連付けるなど工夫することで、児童が道徳的価値を自分事として捉えられるようになるだろう。
- ② 問い返しや内容の整理などのファシリテート技術を活用することで、話し合いを通した協働的な学びを促進し、児童はより多面的・多角的な見方や考え方を取り入れることができるだろう。
- ③ ICT を活用し、児童の発言や考えをリアルタイムで共有したり、児童の学びのプロセスを記録し振り返りに活用することで、児童は自らの成長を実感したり、自分の意見をより明確にしたり、新たな道徳的価値に気付き、深めたりすることができるだろう。